

WIN CONCORD
ウィンコンコード

NEWSLETTER

2017
vol.27



一期一会

造形陶芸家 張 義明（台湾）

陶芸との出会いは、京都教育大学で美術を専攻していた大学4年の春の授業です。初めて「ろくろ」を回した時の感動が忘れられず、人間の力と自然の力を融合させ、初めて完成する極めて難しく奥深い陶芸の魅力は、私をとらえて離しませんでした。陶芸を勉強するために、京都の高名な陶芸家がおられる和歌山大学大学院に進学することができました。すべてが順風満帆に運び、私は希望に満ちて入学する日を待ちわびていた、そんな矢先、悲劇は突然やってきました。卒業式の日、バイクで大学に向かう途中、居眠り運転で猛スピードのまま逆走してきた車にはねられ、私はひん死の重傷を負ったのです。幸い命は取り留めましたが、両手、両足、肩、骨盤を複雑骨折した私は、主治医から「もう陶芸は諦めた方がいい。」と宣告されました。事故のために歩くこともままならない体になって、陶芸に賭ける夢までも絶たれて、私の心は絶望の淵(ふち)に沈みました。しかし、どうしても夢を諦められなかった私は、「なんとか陶芸の道に進みたい。大学院で思いきり陶芸の勉強をしたい。」とその一念で辛いリハビリに耐え、手術を受けるため何度も入院を繰り返しながら、回復のためにあらゆる努力をし、それと並行して病院から大学院に通うことで、陶芸の勉強をスタートさせました。これまでの人生で一番辛かったこの時期に温かく励まして下さったのが、WIN コンコードをはじめ

和歌山の皆さんだったのです。

病院には、日々多くの方々が見舞いに来てくださり、勇気付けてくださった純粋で温かい気持ちは、どれほど私の心を慰め、励ましてくれたことか言葉では言い表せないほどです。

大学院を卒業後、和歌山県龍神村の中・高校の美術講師に着任しました。その後コンクールで作品が入選入賞し、龍神村の事業であるアトリエ付住居への入居が決まったことにも背中を押されました。自分の作品がどこまで人を感動させることができるか、自分の力を試したいとの思いも持つようになり、作家として生きていく決心をしました。その直後、義父の紹介で妻と出会い結婚。公私ともに新しいスタートをきることになり、陶芸家としては、まだまだ駆け出しでしたが結婚翌年には台湾の鶯歌陶磁博物館で個展を開催する機会に恵まれました。会場に WIN のメンバーの方々や台湾在住の元留学生たちが駆けつけて応援して下さい、心の支えになりました。仕事が軌道に乗るにつれアトリエが手狭になり移転を余儀なくされ、第二の故郷である和歌山を離れ京都市の京北に転居する。WIN の皆さんからは「京都は陶芸が盛んなので刺激も多く仕事にはいい環境だ。」「京都はそんなに遠くないからいつでも会える。」と励まされました。転居後、京都工芸美術作家協会にも所属させて頂き、京都・台湾それぞれの作家による台日藝術交流展を台北で企画開催し、又、台湾出身の作家と共に東京都美術館で展覧会を開催するなど恵まれています。今後共感する心、感動する心、感謝する心を忘れず、陶芸を通して台湾と日本の芸術文化、友好の架け橋になればそれ以上幸せな事はありません。



和歌山での就職活動

張 鶯（中 国）

和歌山大学の大学院で2年間の勉強を終えた私は、今年の4月から大阪で社会人として新生活を送ることになります。和歌山から引越しの日に、2年間も住んでいた部屋と別れるのは辛いものだと思います。振り返ってみると、始めて和歌山にやって来たのは2年前の入学試験のときでした。バスで渡った紀の川の橋が故郷の武漢の橋ととても似た構造をしていて、和歌山は第2の故郷になるだろうなと運命を感じました。この静かな街で10平米もない狭い部屋で楽しいことも、悲しいこともいっぱいあって、充実した2年間を過ごしました。その中で一番印象に残っているのは、およそ3ヶ月間も続いた就職活動でした。

大学院一年生のとき、先輩の紹介で留学生支援組織であるWIN コンコードが主催するイベントに参加し、ボランティアの先生達と出会いました。親切な先生達がいろいろな面から私たち留学生の学業、生活を応援してくれました。日本で就職した先輩との交流会に参加したり、和服を着て祭りで踊ったりしました。おかげさまで多彩な留学生活の一年間を過ごしました。

二年生になると、交流会で出会った先輩のアドバイスを従って、さっそく就職活動を始めました。当時は、中国の日系企業で勤務経験のある自分なら、他人に頼らず簡単に仕事を探せると自信満々でした。しかし、いろんな会社の説明会に積極的に参加して、自信をもってエントリーシートを出しても、大半が書類審査で落ちてしまいました。毎日のように不合格のメールが届いて、不安な気持ちでいっぱいでした。自分のやり方に問題があるのではないかと、むしろ能力不足ではないかと思ひ、自信を失ってしまいました。そうして漸く、日本の就職活動が母国と全く違うものだと気づきました。例えば、中国では書類審査を通過したら、すぐ最終面接に進む企業が多いです。日本の場合は選考段階が多く、面接のときも個性より一般常識を重視します。服装などいろんな準備をしなければなりません。このように私は挫折を経て、自力で仕事を探すのは非常に難しいと感じました。その時、私を助けてくれたのがWIN コンコードでした。

WIN コンコードでは、担当の先生から定期的に1対1の就職指導を受けました。



日本企業で人事採用を担当したことがある先生は、人事の立場から日本企業の考え方や、企業にとってどんな外国人の人材を欲しがっているかを教えていただきました。また、私の志望業界がバラバラだとか、エントリーシートの内容が弱いとか、問題点を細かく指摘してもらいました。先生の指導のもとで、すぐ具体的な業界と企業に絞り、エントリーシートも書き直しました。その後、企業ごとに進捗リストを作り、毎週先生に報告し、模擬面接も受けました。最終面接まで進んでいける企業が多くなり、だんだん自信に繋がりました。

先生のおかげで6月に希望する企業から内定を得ることが出来ました。今年の4月に正式にこの会社の一員になり、働くことになりました。配属される部署も自分の志望する海外事業部で、非常に満足しています。WIN コンコードの指導があったからこそ、他の人より早く「就活」のコツをつかんで良い結果になったと思います。心から感謝しております。

この3ヶ月間の就職活動は、私の人生にとって非常に重要な経験になったと思います。振り返ってみると確かに辛い思い出ばかりでしたが、これを機会に自分に対する認識を改め、いろんな面から早い成長を遂げたような気がします。絶対に後悔しない貴重な経験になります。

4月から大阪で新しい生活が始まります。期待と不安な気持ちの両方ありますが、就職活動を経た自分は強くなった気がします。今回の経験から挫折しても笑顔で乗り越える自信と勇気をもらいました。これから仕事でたくさん挫折や失敗があるでしょう。それらは全部、甘えずに自分で克服しなければいけないと思います。今後は、この3ヶ月間の経験を基に自信をもって、前に進んでいきたいです。

関西たい関東

レーダラ フィリップ (オーストリア)

日本語の方言の数は言うまでもなくとても多い。北海道から沖縄にかけて日本人の話し方は多面的で、それぞれの地方の方言にはいろいろな特徴がある。しかし、その多くの方言の中で一番話題になるのは関西弁と関東弁だと思う。僕はウイーン大学でもよく日本語の方言について勉強していたが、その勉強も大体関西弁と関東弁についてであった。そのとき分かっていたのは、関西弁は芸人やお笑いの言葉であり、関東弁は共通語に近くてビジネスの言葉だということであった。ウイーンにいる関西出身の留学生の友達もその説明には賛成していた。

僕のドイツ語の方言も特別なので、最初から日本語の方言に興味を持っており、留学に応募したとき関西にある和歌山大学を希望大学にした。関東の方ではもういろいろな所に行ったことはあったが、関西は初めてであった。

留学が始まったとき関西弁は僕にとってちょっとわかりにくかったが、日本人の友達のお陰で早く慣れてきた。しかし、ビックリしたのは関西のテレビ番組であった。お笑いの番組は思った通りたくさん放映されているが、関西と関東を比べる番組も非常に多い。それは方言の比較だけではなく、人々の性格の比較もある。その比較でわかることは大体いつも「関西の人は面白くてユーモアがあるが、関東の人はちょっと冷たくてユーモアがない」ということである。そして、日本語の授業で「完璧な関西弁のイントネーションは完璧な関東弁(共通語)のイントネーションの逆だ」ということを学んだ。関西と関東の人は、イントネーションだけではなく性格も逆らしい。大学でもよく「関西弁はどう？」・「関西はどう？」と関西について聞かれている。関西の人は自分の方言と地方をととても大切に、特に関東との違いを表すのが好きらしい。それはなぜであろうか。僕はこのことにすごく興味を持っており、ちょっと調べた。授業ではこのテーマについて少し勉強したが、分かったのは関西と関東の競合は歴史的な事象であって、現在だけの事象じゃないということである。

歴史的な事象というと、関西と関東の競合もその

理由も昔からあったということである。ちょっとインターネットで調べたが、関西と関東の関係についての本や記事などがとても多い。日本語だけでなく、英語でもドイツ語でも関西と関東の競合について書かれている。関西と関東の競合は日本人にだけでなく、世界中の人にとって興味深いらしい。

関西と関東の競合の歴史的な理由についてインターネットで検索したとき「Tofugu.com」というホームページでわかりやすくまとめられた説明を見つけた。

現在、日本の都は関東にある東京都だが昔は違った。鎌倉時代より以前、日本の都はいつも関西にあった。江戸時代になったら幕府はそのとき江戸と呼ばれた現在の東京へ移動した。だが、天皇はまだ京都にいて大阪は商業の都であった。その時代、江戸と京都と大阪は日本の三都と呼ばれ、現在のような関西と関東の競合があった。もう少し関西と関東の違いを知りたかったので、インターネットで調べた。関西の人と関東の人のユーモアについての記事がたくさんあったが、ユーモアよりもっと微妙な違いもたくさんあるらしい。例えば、エスカレーターを使うとき、関東の人は左側に立って並んでいるが、それに対して関西の人は右側に立って並んでいる。

それは僕たち留学生にとってはどうでもいいことかもしれないが、それにも歴史的な説明がある。関東には侍が多くて、関西には商人が多かった。侍は素早く刀が抜けるように左側を歩くようにしたが、商人は右手に持っている貴重品を守るために右側を歩いていた。

その他の違いについての記事も読んだ。例えば料理の味。関東の料理は味が濃くて塩辛い。それに対して関西の料理は、薄味であまり塩辛くない。その理由は、関東と関西の出し汁の違いが原因らしい。それでも、僕にとっては関東の料理も関西の料理もとても美味しい。

もう一つの違いは、また方言と性格に関連している。それは関西の人の話し方のほうが感情的だということである。それに対して関東の人は、自分の気持ちをあまり表現しないらしい。面白いのは、このような日本国内の比較をする記事やテレビ番組は、よく関東と関西の比較をするが他の地方との比較はあまりしないということである。なぜ、関西の人は自分の方言と自分たちの地方を

そんなに大事にしているのでしょうか。関西と関東の競合はいつはじまったのでしょうか。関西と関東の違いはどんな風に表されているのでしょうか。僕はこのような事にすごく興味を持っているから、僕の大学の研究レポートも関西と関東の共存についてである。しかし、現在の共存じゃなくて、江戸時代の共存である。僕はこのテーマについて研究したとき、関西や関東のことだけではなく日本のことをもっと知ることができる気がする。しかし、僕のような外国人にとって、日本人は関西出身であろうと関東出身であろうと日本人である。微妙な違いがあっても、全体的には似ているところの方がもちろん多い。日本人のやさしさであろうと、料理の味であろうと、関西と関東はあまり違わないと思う。僕は一年間関西で生活する経験ができて、本当にうれしい。関西の方言も関西の人も好きになって、日本のことをもっと知りたいと思うようになった。もうすぐ帰国するが、できるだけ早く戻って来たいと思っている。

これらは日本です

サリ アストゥティ (インドネシア)



こんにちは。私はインドネシアの英語教師、サリ・アストゥティです。私は教育、人間、文化について多くの素晴らしいことを学ぶために、日本に来る機会に恵まれました。文部科学省から一年半の間、日本の教育制度を勉強するため教員養成奨学金を受けました。経験を通してではあるけれども、私は以前に思っていたものよりもずっと多くのものを獲得していることに気付きました。そして私はとても感謝しています。それで、私はみんなに知ってもらいたいと思っている素晴らしい「日本の美しいもの」についてお話しします。

私が会ったほとんどの日本人には、とても親切



にいただいています。私は「日本人の友達を作るのは非常に難しい」という意見に同意しますが、実際には、私は彼らから心のこもった援助を受けています。駅で何度も迷子になった時、豚肉の漢字をスーパーマーケットで読むことができなかった時、私が ATM からお金を出すのに苦労した時、市民カードを紛失した時、私が自転車を駐輪した場所を忘れた時、そして私が他の厄介な問題に直面した時にも、日本の初対面の人達がいつも私を助けてくれました。その人達は知らない人々ばかりだったので、彼らと私の友人から受けた誠実さと好意を永遠に言葉に言い表すことはできません。私は多くの日本人の友達を作りませんが、心の通じた友達を作ることが出来ると思います。これまでに日本を訪れたすべての外国人の皆さんは、私と同じような経験をされたと思っています。

日本の清潔さは素晴らしいです。私は多くの外国人留学生に、日本の何について好きですかと聞いたことがありました。答えはいつも同じで清潔さです。公衆トイレ、市場、駅、道路、水路どこでも私たちは清潔さを見ることができます。

日本人は教育への関心が高いです。私は都市部と農村部の両方で、大阪と和歌山で学校訪問に何度も行きました。いくつかの学校には普通の数の生徒がいますが、他の学校には少数の生徒しかいません。私は 16 人の生徒が学んでいる和歌山県の農村部の中学校を訪れました。ほとんどすべてのこれらの学校について私を驚かせたのは、等しく整っている設備と先生達です。すべてが同じ状態で、都市部や農村部、生徒数が多かれ少なかれ、日本の学校は、生徒が平等に義務教育を受けることを保証しています。

日本の素晴らしいことをもっと伝えたいことは多くありますが、私は書くスペースが限られています。一つ確かな事は、あなたがここに来て、ここで最高の時間を過ごせばきっとわかるでしょう。

シンガポールの料理

アンドレア リー (シンガポール)

私は教員研修留学生として 2016 年 9 月末、初めて和歌山に来ました。日本へ来る前は教師でした。シンガポール国立大学を卒業後、公立高校で物理と化学を教えていました。そこで 7 年間勤務しました。私は日本の学校制度、市民教育や道徳教育を学習することに興味を持っています。現在は和歌山大学の岡崎教授の指導の下、市民教育に関する研究を行っています。

私は短期間のうちに、和歌山の地元のいろいろなイベントに参加できて嬉しいです。例えば、日本の祭りに参加したり、伝統的な文化を体験したり、各地の観光地に連れて行ってもらい貴重な経験をしました。

私は日本での経験を楽しんでいますが、自分の国を紹介する機会を持ちたいと思います。

シンガポールは東南アジアにある国で、世界で 19 番目に小さい国です。シンガポールの面積は 687 km² で、国土はダイヤモンド型の主要島と 62 の他の小さな島々で構成されています。シンガポールは赤道付近に位置し、熱帯雨林の気候ですが特別な季節変化はありません。その温度範囲は 24° C から 36° C までです。湿度が高く、年間を通して豊富な降雨量があります。

シンガポールは、日本に比べて歴史が短い若い国です。私達の国は、かつてイギリスの植民地であり 1965 年に独立を果たしました。シンガポール市民は、中国人とインド人とヨーロッパ諸国からの移民の子孫で構成されています。これらの民族グループは、原住民のマレー人と一緒にシンガポール市民の核心を形成しています。異なる民族間の意思疎通を改善するために、シンガポールでは公式の日常言語として英語を使用しています。子供たちは幼稚園から英語を学びます。学校では国語以外の数学、化学、その他の科目は言語媒体として英語を使用し教えられます。生徒はしばしば母国語のみを自宅で使います。例えば、私は中国語とホキェン語（中国語の方言の一種）を使って母と話します。しかし、時間が経つにつれて若いシンガポール人は、自宅でも英語を使う傾向があるため母語をうまく話すことができません。

日本と同様、シンガポールは文化遺産を保護するために多くの祭典を祝います。シンガポールで最も重要な 3 つのお祭りは、中国旧正月、ヒンズ



ウ教の祭りタイプサム、マレー祭りのハリ・ラヤ・プアサです。新年から年末までの間に、様々な人種、宗教、伝統行事、神話のお祭りを中心に、明るくカラフルな装飾が施された街の様々なコーナーが見られます。いろいろなお祝いの季節に、シンガポール人はお互いの家を訪問し一緒にお祝いをします。

シンガポールはおいしい料理でも有名です。シンガポール人の好きな食べ物を紹介します。

最も有名なシンガポール料理の一つは、チリカニです。チリカニはシンガポールの地元民や外国人の間で人気のあるシーフード料理で、甘くておいしいスパシーな肉汁でできています。これは、シンガポールの全国的なシーフード料理でありシンガポールの全国料理などは、さまざまな食品出版物で紹介されています。



典型的なココナッツミルクとパンダンリーフと米で作られたナシレマクは、一般的にはシンガポールで朝食（または昼食）時に摂取されるマレー香りの米料理です。その調理は新鮮なキュウリ、オムレツ、ピーナッツと揚げたアンチョビおよび、サンワシのチリのシンプルな品からなります。

「アジアのクロワッサン」とも呼ばれるシンガポールの朝食用定食であるロティ・プラタは、南インドの小麦粉ベースのフラットパンで、ギー（澄んだバター）をグリッドに揚げたものです。ロティ・プラタは通常、鶏や魚のカレーが添えられています。辛いカレーを食べることができない人の

ために、砂糖はロティ・プラタで提供されます。また、卵、チーズ、玉ねぎなどのトッピングを使って料理を注文することもできます。

シンガポールには他にも美味しい食べ物がたくさんあります。みなさん、シンガポールに行ってみてください。

私の留学生活

ボカ エマリン(ソロモン諸島)



こんにちは皆さん、私は和歌山大学の観光学部の学生です。私は2016年4月3日に日本に来て、最初の5ヶ月間は大阪大学で日本語の基礎を勉強しました。そして、9月2日に日本での学生生活の残りを過ごすことになる和歌山に引っ越してきました。私のここでの生活経験は、南太平洋諸島における私の以前の学生生活と比べると全く違うものです。

和歌山県に引っ越す前、私には既に2人の和歌山市に住んでいる友達がありました。ソロモンに滞在していた日本人の友達が、私に彼らを紹介してくれました。彼らは私の引っ越しと寮に落ち着くのを手伝ってくれました。和歌山に来ると、和歌山大学の先生が留学生のために私たちを歓迎し、私たちを市役所に連れて行ってくれました。

私は自宅にいたのと同じように快適で、寮に住む他の留学生とも友達になり始めました。しかし、私の問題は大学へ行く方法でした。他の留学生のように自転車に乗ることができません。大学は寮から遠く離れていることが大きな問題です。そこで私は毎晩自転車に乗って、寮の近くに住む老人の助けを借りて、駐車場で自転車に乗る練習をしました。時が経つにつれて、私は自転車に乗ることはできましたが、遠く離れた大学まで自信をもって乗ることはできませんでした。私は事故に怯

えていました。さらに、WIN コンコードの先生の助けとサポートを得て、スピーチコンテストに参加するようになり忙しくなってきました。私は和歌山市の主催する日本語スピーチコンテストで特別な賞を受賞しました。

私達は熊野古道、那智の滝、白浜を訪れ、熊野古道の修理を手伝う経験をしました。その他に恵まれたことは、食べ物、舞踊、楽器、歌、詩、踊り衣服などの日本の文化体験に参加したことです。私は和歌山での生活すべてを楽しみました。私は毎日、新しい体験をして、それらはさらに冒険的なものになっています。特に自分自身を合わせていこうとすることや、全く新しい環境や背景、文化、言語や生活様式が全く違う社会に順応することを学ぶことです。最も挑戦的なことは、日本語を学ぶことです。私の目的は日本語を話せるようになることでしたが、思ったほど簡単ではありません。それは同時に練習と勉強が必要です。

すべての言葉を正しく発音しようとし、違う意味をもった同じ言葉を学ぶことは、私にとっては初心者としての挑戦です。さらに、4つの季節、春、夏、秋、冬を体験するのは初めてのことです。ソロモンでは、雨季と乾季の2つの季節しかありません。秋と冬は私にとってとても寒かったです。日本を旅行するのは快適で簡単です。人々はとても丁寧で親切なので、もし方向や行き方を助けてもらいたいなら、尋ねれば教えてくれます。だから、私は日本の挨拶やおもてなし、コミュニケーションや時間管理など、ほとんど何かをするときに敬意の気持ちを持って行う仕方などの日本文化を称賛します。

国はとても発展し高度な技術もありますが、日本の文化は、そのまま変わっていません。そして私の将来の夢は、日本語を流暢に話すことです。



新留学生紹介

胡 俊華（中国）

初めまして。私は中国から参りました胡俊華と申します。華さんと呼んでくださっても結構です。山東師範大学日本語学部の二年生です。

和歌山市にきた時の第一印象は、本当に良いものでした。空気は美味しいし、道路も綺麗だし、留学生会館行きの途中で親切な運転手さんにもお会いしたからです。これから一年間の留学生生活をととても期待しています。

日本に来てから、既に一週間経ちました。家族と離れて一人暮らしをして、その上異国で慣れないことがたくさんあるので、最初はかなり不安でした。国際交流協会と WIN コンコードの皆様のおかげで、ホームシックを感じることもなく楽しい毎日を送っています。

一年半ほど日本語を勉強してきた私は、日本語レベルがまだ不足していると思います。今回の交換留学をきっかけに、日本語の能力をもっと向上させたいです。そして、日本の社会や文化に対する理解も深めたいと思います。新学期が間もなく始まります、今後も一生懸命勉強して素晴らしい留学生活にしたいと思っています。

トモ（カザフスタン）

私はカザフスタンから来ました留学生の「トモ」です。住んでいるところはカザフスタンですけれども、ロシア人です。私の趣味はアニメや漫画やゲームを楽しむことで、将来漫画家になりたい夢を持っています。

日本に来たのは今回が2回目で、1回目は去年東京に来ました。今年、和歌山に来てすごく嬉しくて日本に関してあらゆることを勉強しています。さらに、和歌山大学に入学したので、色々と日本語や日本の文化について勉強するつもりです。

ところで、最近日本人がカザフスタンのことをよく知っているのは、非常な驚きです。なぜなら、2～3年前カザフスタンと言っても、誰もあまり分らなかったのです。しかし今は皆よく知っているのです、カザフスタンの人々も嬉しいと思います。

私が住んでいるカザフスタンの町は、アルマトイです。日本より冬は寒しい、雪が本当にたくさん降るし、長い期間とても暖かい服を着る必要があります。一番寒い冬の気温は-25度ぐらいです。

私が面白いと思うことは、日本人はよく自転車を使っていますが、カザフスタンではバスの運賃があまり高くないので皆バスとか車を利用します。地下鉄も電車もまだあまり発達していないので、町にはバスが沢山走っています。道路は広いし、山は木々の緑で覆われています。

食べ物について言えば、カザフスタンの人々はいつも肉を食べています。特に羊の肉が好まれ、男性は肉を食べなかったらお腹がいっぱいにならないのです。

カザフスタンで一番綺麗なものは山です。人気がある山は特に Chimbulak と Medeo で、他にも色々あります。景色が素晴らしく空気がたいへん綺麗なため、皆健康維持のために山へ行きます。そこは動物も鳥も緑もいっぱいあります。しかし、ただこの文章を読んでカザフスタンはどんな国なのか分かりにくいと思います。皆さんが



カザフスタンに行って、自分で味わったほうがいいでしょう。

シャヒラ (マレーシア)

私はシャヒラです。マレーシアのケダーから来ました。家族は父と兄と弟と私の4人です。趣味はドラマを見ることと音楽を聞くことです。そして亀が大好きです。なぜなら、ある物語によると、亀は歩みが遅くても最後には勝ったからです。私も何かをして、問題や困難があっても最後には成功できるようにしたいです。

日本に来る前には色々心配なことがありました。例えば、食べ物を心配していましたが、そういうことがないと分かり良かったです。日本にいる間、先輩がどのようにハラール食品を選ぶのかを教えてくださいました。それはいい方法だと思います。そして日本人の友達をうまく作れるかなと心配しています。それから、私は日本語が下手だから、授業がどうなるか緊張しています。授業ではいろいろな困難があるはずですよ。

マレーシアのAAJに入ってから日本語や日本の文化について学びましたが、まだまだ足りないと思っています。日本に来て実際にここで生活して、いろいろなことを学びたいです。

私はずっと学生のままでいたいと思っていましたが、それは無理なようです。将来は大学を卒業したあとエンジニアになり、いろいろな素晴らしいものを開発して人間の生活がよくなるように何か作りたいです。4年間で和歌山大学を卒業できるように頑張ります。

アタジャン (カザフスタン)

私の名前はアタジャンです。私は19歳でカザフスタン出身です。カザフstanはユーラシア大陸の中央部に位置します。国土の大部分はアジアの一部であり、西部地域はヨーロッパの一部です。世界第9位の広大な国土面積を有しています。カザフstanは5カ国と国境を接しており、ロシアとの国境は世界で最も長いです。カザフstanは天然資源が豊富で人々には、文化的、言語的、歴史的な特異性を持つ100以上の民族が含まれています。宗教は信者の大半がイスラム教徒とキリスト教徒です。国語はカザフ語であり、私たちはまた、民族間のコミュニケーションのためにロシア語を使っています。

カザフstanの首都は、世界で最も若い国の一つであり、1998年以來アスタナです。アスタナは毎年変化し、地元住民や市の訪問者にとってより

魅力的になります。ユニークな建築様式の首都は、ヨーロッパと東の文化の高度な伝統を兼ね備えています。今年にはエキスポを開催し、テーマは「未来のエネルギー」です。2番目の主要都市はアルマトイで、カザフstan最大の都市です。私はここに住んでいます。アルマトイは美しい自然があり常に庭園の街とみなされており、周辺には多くの山々があります。アルマトイを訪れる観光客の数は年々増加していて観光は冬のスポーツに関連しています。通常、観光客はスキーのリゾート地Shymbulakを選びます。そこは海拔1700メートルの高地にあり、最大の屋外スケート場の一つであるMedeoの近くに位置します。カザフstanの各地域には独自の特徴があります。

現在、カザフstanの観光は発展過程で、そのような種類の専門家が求められているので、私は観光を専門に選んだのです。少し前に私は勉強するために日本に来ました。私は日本の文化、自然、言葉が大好きなので日本に留学しました。ここでは日本語を学び、そして日本の観光について知りたく、専門家から知識を得たいと思っています。

アミリア (マレーシア)

私の名前はヌルル アミリアと申しますが、アミリアとかエミと呼んでください。今年で20歳になります。マレーシアのマラッカから来ました。

マラッカは観光地として外国人に人気があり、私はそこで5人の家族と一緒に住んでいます。家族構成は、母と父と3人の兄弟で私には2人の弟がいます。趣味はドラマを見ること例えば、マレーシア、韓国のドラマなのですが、一番好きなのは日本のドラマです。時間があるときは、絵を描くのが楽しみですが上手ではありませんただ新しい技術を学ぶのは好きです。

既に一週間が過ぎましたが、まだまだ日本の生活に慣れていません。今回初めて日本に来たので、気候がこんなに寒いとは思っていませんでした。日本に着いた日は、気温3度だったのですごく寒かったです。マレーシアと全然違います。

日本に来る前は、いろいろなことが心配でした。日本語がまだうまくないし、生活習慣と文化もまだ分からないので、どのようにして日本人の友達を作ろうかなと考えていました。けれども、やさしい先輩たちが色々な事を教えてくれて本当に感謝しています。先輩方はお母さんみたいです。電車の乗り方やどんなハラール食品が食べられるかななどを教えてくださいました。

和歌山大学ではシステム工学を勉強します。4

人のマレーシアの友達と同じ学科なので、授業は少し楽になるかなと思います。4年間で和歌山大学を卒業できればと期待しています。できるだけ4人で一緒に卒業したいです。日本の生活に慣れるように努力しますのでよろしくをお願いします。

アティラ (マレーシア)

はじめまして。私はアティラです。マレーシアから来ました。マレーシアは一年中暑い国ですがおいしい食べ物がたくさんあります。例えば、ロティチャナイやナシレマなどです。そして、マレーシアでは様々な民族が平和に暮らしています。もし日本と異なる経験をしたかったら、ぜひマレーシアに来てください。

私の家族はマレーシアに住んでいます。8人家族で6人姉妹で姉が2人、妹は3人います。父は教師として働いていますが、母は主婦です。ところで、私は留学しようとは全然思ったことがなくて、アニメと漫画からの日本しか知りませんでした。日本はマレーシアと違って四季もあり、もっといろいろな経験を積みたかったら日本へ行くのはいい選択ではないかと思っています。ですから日本がどのような国なのかを知りたいので、留学することに決めました。

私は日本に来た後、すごく寒い国だと思っています。今もその寒さに頑張っていると思っています。先輩たちはとても優しく、様々なところに連れて行ってくれました。今から和歌山大学の学生としての私の人生が始まります。

私は4年間で卒業するため、頑張ろうと思っています。

ヌライン (マレーシア)

はじめまして。私の名前はヌラインです。

ヌラインと言う名前はアラビア語からの由来で、輝いている目という意味です。私は19歳で8月13日は私の誕生日です。私はマレーシアのプトラジャヤから来ました。プトラジャヤは、マレーシアの行政の中心都市と言うことです。公園の中の都市なのですごく綺麗です。

姉妹は私を含めて4人で、私は長女です。その下の姉妹との年の差は6歳なので、妹はいつも両親に甘やかされています。父はエンジニアで、母は公認会計士です。生活の中で家族が一番大事だと思います。

趣味は音楽を聴くことと歌を歌うことです。時間があれば、時々仲の良い友達と一緒にカラオケに行くと声が出なくなるまで歌います。私は小学



校からテコンドーをやっている、今黒帯をもっています。もっと高いレベルまで行きたいけれど、日本にいる間は機会がなさそうです。そして一番好きなスポーツは、バスケットボールです。高校生時代はいつも活躍していてリーダーでした。

私は留学したかったけれども、日本に留学するとは一度も思いませんでした。しかし、奨学金をもらったのをきっかけに、留学することに決めました。それだけではなく、小さいころからエンジニアになりたいという夢があったし、日本が一番いいところだと思ったからです。だから勉強を精いっぱい頑張りたいと思います。同時に、日本の景色や文化を楽しみたいです。今から四年間よろしくをお願いします。

グェット (ベトナム)

ベトナムから参りましたグェットと申します。名前の発音が難しいので、友達には「ツキ・月」と呼んでいます。一年間の予定で和歌山大学での交換留学生として来ました。

子供の頃からドラえもんやドラゴンボールの漫画をよく読んでいてアニメが好きでした。成長してインターネットや新聞などの情報を通して、日本語と日本の文化を更に知るようになりました。特にITの分野に興味があります。そのため日本の事が理解できるように、私は一所懸命勉強しホーチミン師範大学の日本語学部に入りました。

自分の日本語能力を向上させ、一年生から日本語を集中的に勉強し、日本人学生のフィールドリサーチや日系の交換プログラムなどにもよく参加していました。しかし、それだけでは足りませんでした。ベトナムでは日本語を練習したり体験できるところが多くありません。ホーチミン市師範大学と和歌山大学の交換留学制度のおかげで、私の人生は新しいページをめくりました。

和歌山へ行く前に、私の家族が留学に反対しました。「一年間では期間が短いので何も勉強できない」と思っていました。勉強できるかできないかは本人の努力次第です。もし一年間ずっと家にいて誰とも話さなく、何もしなければ10年間留学しても進歩しません。その説明で家族も分かってくれ応援してくれています。

和歌山に住みは始めると、私はすべての事を自分でやらなければなりません。親はなく、私の人生は完全に私のものです。私を管理する事は、私が今まで知っていたことの中で最も難しい事です。

時間がある時、コンピューターに触る事が大好きです。新しいソフトについての情報を読むのも好きですが、全然上手ではありません。学ぶのに遅すぎる事はないという諺のように、私はたくさんITについての知識を吸収したいと思っています。

私は笑顔が大好きなので、自分と出会った人たちに笑顔を作りたいと思います。一年間はあっという間に過ぎると思うので、できる限り日本の事だけではなく、たくさんの友達と素晴らしい思い出を作りたいと思っています。

ビン (ベトナム)

こんにちは。ベトナムから来た留学生のビンです。豆のBEANです。出身地は美食天国と呼ばれているホーチミン市です。とてもにぎやかな町で単車が多くて暑いところです。

私の趣味はダンスです。落ち込んでいるときでも、ダンスをすると立ち直れます。私は旅行も大好きで、これまでに6カ国に行きました。次は日本国内のいろいろなところへ行きたいです。

私が日本語を勉強しようと思ったきっかけは、日本の漫画です。漫画を通じて、日本人の生活や文化が好きになりました。日本に絶対行きたいという強い気持を持っていたので、日本に留学できたことはまるで夢のようです。しかし日本に来るのは初めて、家族と離れて一人暮らしも初めての事です。日本はベトナムと全然違うし、家族も友達もおらず、ちょっと慣れなくて心配なことがいっぱいあります。けれども、ずっと日本に来るのが自分の夢だったから、どんなに辛いことがあっても諦めないで頑張るつもりです。

日本にいる一年間で、いろいろなことを経験できると期待しています。

ユイ (ベトナム)

ベトナムのホーチミン市師範大学日本語学部4年生のユイと申します。

小さい頃に私から見た日本は、ただの勇ましい侍、美しい桜、ドラえもん、地震のイメージがある国でした。私は成長するにつれて、日本への関心が高まりました。2011年に起きた東日本大震災の後で、多くの人々が食べものを求めて長い行列をつくり、非常事態においても秩序を乱さない国民性というものに私は非常に感動して日本語を勉強したい、日本の文化をもっと知りたいという思いを抱き、師範大学の日本語学部に入学することに決めました。

私の趣味は音楽を聴くことです。特に槇原 敬之、コブクロといった日本人の歌手の歌が大好きです。歌の歌詞の意味を理解することで、日本人の心や言葉の使い方などを学ぶことができます。

和歌山大学の学生たちがベトナムに交流に来た時に、私は日本人の学生と歌を歌ったことがあり、良い思い出として記憶に残っています。これから勉強も趣味も一生懸命頑張ります。

2016年度 活動経過

4月 3日	新入生歓迎お花見
5月 21日	WIN コンコルト`ニュースター 26号発行
5月 22日	第8回 NPO 法人 WIN コンコルト`総会・交流会
6月 19日	WIN コンコルト`設立 25周年感謝の集い
7月 3日	紀州ぶんだら踊り練習
8月 6日	紀州ぶんだら踊り・パーティー
10月 2日	第25回留学生故郷を語る集い
10月 16日	熊野古道修復作業 参加
10月 18日	大相撲和歌山場所 観戦
11月 3日	日本舞踊体験 参加
11月 20日	大学祭模擬店への協力
12月 23日	八朔狩り・鍋パーティー
1月 1~3日	お正月体験
2月 24日	会社見学 (株)島精機製作所

年 間

- ・就職活動に向けた勉強会の実施
- ・日本語及び日本の歴史・文化等の学びを支援
- ・生活関連の情報提供や支援
- ・生活用品の貸与
- ・留学生活動（卒業アルバムの作成、大学祭の模擬店）の協力
- ・ホストファミリーとしての支援

花より集まり

伍 雨情（中国）

日本を代表する花とはと聞かれると、ほとんどの人が「桜」と答えるだろう。私もそう思う。

小さい頃から日本と言えば、まず思い出すのは富士山で、次は桜だ。日本語を勉強して、初めて聞いた日本の歌も「桜」という歌だ。「さくら、さくら、やよいのそらは、みわたすかぎり、かすみかくもか、においぞいずる、いざや、いざや、みにゆかん、」短くても、穏やかな曲と伝統的な楽器の音とともに日本の独特な雰囲気を作っている。初めて「さくら」を聞いたその時から、歌を聞きながら弥生の桜を眺めることを楽しみにしていた。

「花見」とは、日本語で特に桜を見ることを指す。日本の春の重要な行事だ。三月に入ると、日本人は桜を待ち始める。天気予報では桜の開花予想日を放送するし、和歌山城の桜が咲きだしたときは中継までする。中でも、外国人の私にとって最も不思議だと思うのは、大阪の桜が初めて満開になったとき、市長のような偉い人が正式に宣言するというニュースである。美しいとわかるが、ただの花がなぜそのように注目されるのだろうか。「桜祭り」に参加した後、その理由が少しわかってきた。

和歌山城に着くと、もう既に大勢の花見客がいた。道の両側には桜がきれいに咲いていた。桜の花びらはピンクのものもあるし、白いものもあるし、大変可愛かった。風が吹くと、空の中で舞い、雪のようでもあるし、羽のようでもあるし、言葉で言えないほど美しかった。約束した場所で友達と久しぶりに再会し、一緒に桜の木の下で美味しいお弁当を食べたり、お茶を飲んだり、さまざまな話をしたりして、非常に楽しかった。青い空の下は白い城で、白い城の下は満開の桜で、満開の桜の下で遊んでいる私たちは、いかにも美しい光景だった。

部屋に引きこもりがちであった冬が終わり、最もいい季節である春に外の桜を見たり、友達に会ったりするのは、いいことではないか。周りを見ると、赤ちゃんを連れてきた家族もいるし、制服を着た中学生たちもいるし、同じ会社の社員同僚もいるし、年齢と職業に関わらず、皆ここに集まり、にぎやかだった。

これをみると、花見よりも集まることの方が本当の目的なのではないかと思われる。実は、花

見は集まるための言い訳で、人間関係を大事にする日本社会には必要不可欠なのではないだろうか。桜が満開になるいい景色は話題を提供し、長時間の集まりとコミュニケーションは人と人の距離を縮める。すべてのことが自然に順調に運ぶ。花見ははっきり言わない日本人にとって、人間関係の最高の潤滑油になる。おそらく、これが桜の開花状態が注目される理由だろう。

そろそろ、公園の桜が満開になりそうだ。

日本の伝統文化について

ファム ティ ビツ ハン（ベトナム）



日本の国花というと、みんな桜の花をすぐ思い浮かべるでしょう。しかし、日本の国花は桜という説もあるし、菊の花という説もあります。ですから、日本の菊の花に興味を持って、日本人の生活での菊の花はどんな意味を持っているかという点について調べたいと思います。同時に、ベトナムの国花も紹介したいと思います。

『菊』は日本を代表する花です。昔から日本では菊は花の中で最も高貴とされてきました。しかし、元々、日本原産の花ではないのです。菊は古代バビロンの時代から装飾として使われ、古代インド・中国・朝鮮でも建築装飾に用いられ、日本には中国を通じて奈良時代に輸入されました。天皇家の祖先である天照大神は太陽を司る神です。菊の花は、花の形が太陽の形に似ていることから、天照大神の信仰とも結びついて日の御子・天皇の象徴とされ、永遠にますます栄えることを祈る思想が受け入れられたのでしょう。その花卉が放射状に並んで日の光を連想させることから、菊の紋章が日の出ずる国の象徴である天皇家のシンボル

として創作されたと言われています。

菊の花は、当初は現在のような鑑賞用としてではなく、延命長寿の効用を伴う延年草とも呼ばれて、邪気をはらう不老長寿の薬として伝わったようです。

ベトナムでは、菊の花といえばお葬式の花とかお供え物をすぐにイメージします。そのため、プレゼントとかめでたい時とかお正月には使いません。日本では一般的に菊の花は葬式やお供え花のイメージが強かったが、端午の節句、お正月にも菊の花を飾ります。ベトナム人としてはちょっとおかしいと思います。ベトナムでは菊の花は供える花というのが固定化されていますので、そこから、「縁起が悪い」というイメージがあるのは当然です。しかし、日本では菊の花はもともと「長寿」や「吉祥」を言う意味を持っていて、「菊を活けるといい子に育つ」「菊を飾ると福が来る」とされてきました。時代も変われば感性も変わるもので、今では、菊の花は結婚式に飾るものもあります。

菊紋が日本の天皇家のシンボルになっている理由は、皇室で初めて菊の紋が使用されたのは後鳥羽上皇（鎌倉時代の天皇）の御代で、上皇は個人的に菊を好まれ刀や輿車・装束などに菊紋をつけました。それが代々天皇家に受け継がれていき、いつしか皇室の御紋章となったのです。その後、この菊紋は天皇を象徴する紋となります。平安時代には広く菊の文様が使われるようになりました。調べたところによると、桐紋も使います。天皇の黄櫨染御袍（こうろぜんごほう）に「桐紋」が描かれています。また、日本政府や首相官邸にも使われている紋章でもあります。しかし、菊紋は天皇家の紋章で、桐紋は公的な紋章という性質を持っています。

平安時代から菊の花は薬草や観賞用植物として用いられました。そして、菊紋は文様として流行して、宮中では年中行事として観菊の宴が始まりました。鎌倉時代には、後鳥羽上皇が菊紋を皇室の紋章として正式にとり入れたのです。戦国時代（15世紀の中頃）には、武家のシンボルとして足利氏、織田氏、豊臣氏が菊紋を家紋として使いました。江戸時代前期から菊の花の栽培熱が高まり、大輪の花など多数の品種が生み出されました。菊紋も江戸時代には多くの大名や神社や仏閣の紋として使われました。しかし、町家の商標などにも濫用されていて、許可がなく物品に菊紋を書くことが禁止されました。明治維新以降、天皇家だけが菊紋を使うようになりました。それで、皇族はほかのデザインの菊紋を使いました。現在、皇族

は十四弁の菊紋を使いますが、天皇だけは十六弁の菊紋を使っています。今日では菊紋は皇室の食器や礼服や建築物、印紙やパスポートなど、広く利用されています。

服の菊の模様

日本人にとって、菊の模様は非常に人気となっています。菊の模様は日本人の伝統的な服を飾るために不可欠なのです。

和菓子

秋にはお茶会などで菊の花をかたどった和菓子がよく用いられます。

祭り

毎年、福島県の二本松市の二本松城跡で菊人形展を開催します。菊の人形の着物を通じ、日本人の菊の文化が見えてきます。この菊花展を開催するために多くの菊にかかわる職人さんたちが日頃の腕前を発揮する場所でもあります。

日本の食用菊

食用菊は、苦みが少なく花弁を大きく改良された品種のことです。日本では食用菊として栽培されている延命薬は奈良時代に中国から伝来し、江戸時代から一般的に食べられるようになったと言われています。

中国では古くから薬用や食用として菊が利用されていて、さまざまな品種から選抜・改良を行うことで質のよい食用菊が誕生しています。形がきれいで花びらに張りがあり、みずみずしさを感じるものがよいでしょう。またいい匂いがします。

以上のように菊は天皇の紋章でもあり広く日本人に愛されてきたものであり、古くから現在まで日本人の心に大切にされてきているものだと思います。

ベトナムの国花

ベトナムの国花は蓮の花です。蓮の花は泥の中で育ち、花を咲かせます。暗い泥水の中から出てきたのにきれいな花を咲かせています。泥水が濃ければ濃いほど花の香りがいいと言われていました。人生も同じです。泥水は苦しみや困難の象徴で、その泥水の中で蓮の花もぐんぐん育ちます。蓮の花の事から学べます。今の状況がたとえ泥の中でも、あきらめずに努力を続けていると成功につながります。この事から、蓮の花は粘り強い性格を表すこともあります。

二つの異なる花は二つの異なる国を象徴しています。きれいな観賞用としての価値や国の伝統的文化だけではなく、国民性をありありと表すものだと思います。





WINコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を十分に発揮しうる状況に至っていると思われ
ます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

WINは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク、Human Active Networkで結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして世界各国から勉学の間を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上にHuman Active Networkを構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、WINコンコードを設立するものです。

NPO法人 WIN コンコード事務局

〒640-8215 和歌山市橋丁23番地N4ビル3F

TEL/FAX 073-426-0798

E-mail ryugakusei@win-concord.jp

<http://www.win-concord.jp>